

紙カルテ電子ファイリング事例

電子カルテと連携

導入の狙い

電子カルテ導入前の過去カルテを電子化して保管する

導入病院の情報

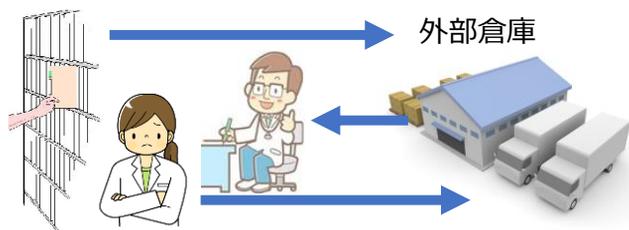
患者数：293,000人
診療科目数：30
病床数：611床
電子カルテ：富士通HOPE

日本赤十字社病院

2017年3月導入



導入前の運用



- ◆ 過去カルテは、一定期間経過後に外部の保管倉庫に保管する。
- ◆ 医師からの要請があった場合、申請手続きを経て外部倉庫から取り寄せる。
- ◆ 届いたカルテは、要請のあった医師へ手渡し。
- ◆ その後、再度外部の保管倉庫に保管する。

導入前の課題

膨大な過去カルテを保管



- ◆ 膨大な過去の紙カルテを外部倉庫に保管しており、保管コストが年々増加してきている。
 - ◆ 医師からの要請で過去カルテを取り寄せるのに時間を要し、タイムリーに閲覧できない。
- ↓
- ◆ カルテを電子化して保管する事で、保管コストを抑えたい。

顧客の要件

- ◆ 運用中の富士通の電子カルテ「HOPE」と連携できること。
- ◆ カルテの先頭ページに貼られたカルテ番号のバーコードを認識し、カルテ番号.pdfのファイル名でカルテを電子化できること。
- ◆ データベース上に患者情報とスキャンしたカルテが紐付けされて登録できる事。
- ◆ 複数患者のカルテをまとめてスキャンし、検索キーは手入力することなく電子カルテの患者情報で検索できる事。
- ◆ カルテの検索は、患者番号,患者氏名,カルテ番号,診療科,入院開始日などで検索できる事。

導入のポイント

- ◆ 複数の患者のカルテをまとめてスキャンするだけで、一括してカルテを自動登録できるシステムを導入する。

導入後の運用

紙カルテを電子化して患者番号や入院カルテ番号等で検索

カルテの登録

過去の紙カルテをスキャンして電子化



カルテの先頭ページにカルテ番号のバーコードが貼られており
スキャン時に患者間のセパレータとして利用する。
バーコードを認識しカルテ番号.pdfを自動生成

一括登録画面



カルテ番号が患者情報に存在するデータを
登録対象として一覧表に表示される。

- ◆ 紙カルテに入院カルテ番号のシールを貼り、スキャンニング作業はパート社員を採用
- ◆ スキャンニング時にバーコードを読み取り、入院カルテ番号.pdfを自動生成
- ◆ 電子カルテの患者情報と照合しスキャンしたカルテを診療科ごとのフォルダに一括登録

カルテの検索

カルテ番号や患者番号,患者氏名等でカルテを検索



検索用データベース



カルテ検索画面

カルテ表示



- ◆ 患者番号,氏名,カルテ番号,生年月日,診療科目等でカルテを検索
- ◆ 検索結果は一覧表示され、一覧から表示したいカルテを選択
- ◆ 選択されたカルテがAdobe Acrobat Readerで表示

導入後の効果

- ◆ 電子カルテと連携するため、カルテの検索キーの入力が不要になり登録作業が容易で迅速。
- ◆ カルテ番号のバーコードを認識して、カルテ番号.pdfのファイル名を自動生成するため、ファイル名のリネームの必要がなくなった。
- ◆ スキャナに原稿をセットしてスキャンボタンを押下するだけで登録ができ、パート社員でも問題なく作業を行える。
- ◆ 医師が過去の病歴を容易に過去のカルテで確認できるようになった。
- ◆ カルテの外部保管は、電子化によって徐々に減少しつつあり、保管コストの低減を図ることができた。

導入までの日数

導入したその日から運用が可能となった。

お問合せ先：下記のお問合せフォームからお問合せください。

<https://www.tssol.jp/contact/karute/>

開発元 株式会社豊里システムソリューション
〒112-0005 東京都文京区水道2-11-5
<http://www.tssol.jp>

